

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北関東)	◎	*	*
	○	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・天候が暖かくなり、これから総会シーズンが始まり、宴会等も少しずつ増える。
	○	コンビニ（エリア担当）	・今後も来客数は落ち込むことなく維持できると考えている。
	○	コンビニ（エリア担当）	・春休み明けで、学生や新社会人の通学、通勤利用が本格化し、平日の来客数増加が期待される。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・もう少し天候が暖かくなれば、人の動きも活発になると予想している。
	○	都市型ホテル（経営者）	・年間で1番落ち込む2月を乗り越え、天候も暖かくなってくるため、来客数も増加傾向となる。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊等は団体受注も多く、前年実績を上回る状況である。宴会場利用に関しても同様で、懸念していた宴会件数も増加傾向にある。ただし、1件当たりの人数減少が大きくなっている。会合の欠席に対するハードルが低くなり、幹事の予想する参加者数とのかい離が発生している。
	○	旅行代理店（経営者）	・春の繁忙期が始まるため、やや良くなる。
	○	タクシー（経営者）	・昼も夜も動きが良くなっているため、この先も良くなるとみている。
	□	商店街（代表者）	・新年度に向けて、幼稚園児や児童数の減少による写真需要、販売数の減少は明確であるため、景気は良くならない。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・中東情勢は石油関係のいろいろな物に影響している。この情勢が落ち着けば、景気は幾らか落ち着くのではないかとみている。
	□	百貨店（営業担当）	・依然として物価高で、消費行動の改善には至らない。向こう数か月は現状維持ではないかと考える。
	□	コンビニ（店長）	・近隣の街中に立地していた最後のスーパーの閉業以降、それまでも少なかった来街客が更に少なくなり、来客数は大変厳しい。この傾向はしばらく続く。
	□	家電量販店（営業担当）	・海外からの資材や商材の入荷状況が悪く、単価も非常に高くなっているため、経営は悪化している。
	□	家電量販店（企画担当）	・エアコンの2027年問題に伴う駆け込み需要や、電気代高騰による省エネ需要の高まりから、エアコンは引き続き堅調な推移が見込まれる。一方、最近の原油価格の高騰や物価高などによる家計への圧迫から、生活必需性の低いその他家電や耐久消費財は、消費マインドの低下が懸念される。
	□	自動車備品販売店（経営者）	・特段良くも悪くもなるような要因やムードがない。
	□	住関連専門店（仕入担当）	・ガソリン価格の乱高下や原油についてのネガティブな報道など、消費を後押しする明るい要素がないため、節約意識の高い状況は変わらない。
	□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・ガソリン価格や物価の高騰が変わらない間は、支出を抑える傾向は続きそうである。ただし、宴会自体は減ってはいない。
	□	都市型ホテル（支配人）	・4月は歓送迎会、5～6月は総会等の予約を受ける状況は変わらない。
	□	旅行代理店（従業員）	・やや上昇傾向だったが、ここにきて停滞している。このままこの状況が続くとみている。
□	テーマパーク（職員）	・中東情勢に関連してガソリン価格の高騰が際立っている。レジャー費は劣後に回る傾向があるため、旅行や外出控えになると懸念している。	
□	ゴルフ場（従業員）	・予約状況は前年を下回っている。物価上昇に伴い、レジャー等の娯楽費がシビアになってきている。	
□	住宅販売会社（経営者）	・当地周辺では、土地の動きは大して変わらず、価格も全く上がらない。事務所やアパート関係の家賃等についてはほとんど変化がなく、逆に値引きして安く貸しているケースが多いようである。人口の流動や新規の出店等がほとんどなく、動きが停滞している。	
□	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・諸物価が上昇しており、住宅関連では急を要する修繕依頼が中心になっている。基本的にこの状態が続くとみている。	

▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・当店のような観光土産店は、情勢が不安定になると真っ先に不景気になる。世界情勢がどのようになるか予断を許さない状況のため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（総務担当）	・このまま原油価格の高止まりが続けば、景気悪化も続く。
▲	スーパー（商品部担当）	・今後も食料品の値上げが続き、かなり厳しい状況も続く。食料品業界では、良くなる要素が見当たらない。現状維持できればひとまず良い状況である。
▲	スーパー（経営企画）	・原油価格高騰の影響が出てくる。
▲	衣料品専門店（経営者）	・ガソリンを始め、諸物価高騰による客の買い控えが心配である。
▲	乗用車販売店（経営者）	・物価上昇の影響が大きい。当地域の自動車メーカーでは輸出台数は微減であるものの、米国の関税問題等の影響により利益が減少している。また、中東情勢の問題でガソリン価格を心配して車の稼働を減らそうというドライバーも出てきている。
▲	乗用車販売店（従業員）	・メーカーの方針転換による影響度合いが不透明である。
▲	一般レストラン（経営者）	・原油の状況次第ではないかと考える。不足すればガソリンだけではなく、全てにおいて値上げとなるのは間違いなく、外食への影響は大きい。
▲	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・食材関連では、4月からの値上げ通告を受けた品目が多数ある。更に海外情勢による肥料や飼料を始めとした関連品の値上げで、食材費への影響が懸念される。状況次第では、調達自体が難しくなることも懸念され、影響は大きく、長期に及ぶのではないかとみられる。今後の展開において、不透明感が一段と大きくなっている。
▲	旅行代理店（所長）	・先行きは不透明である。中東情勢の問題が解消すれば、良い方向に進むとみているが、このままガソリン価格の高騰が続くと、マイカー利用の旅行への影響は否めない。
▲	旅行代理店（営業担当）	・石油価格や物価の上昇により、消費者の行動に支障が出てくる。
▲	通信会社（社員）	・エネルギー価格上昇の影響により、サービス提供に必要な原材料も価格上昇が見込まれるため、業績への影響が予想される。
▲	通信会社（営業担当）	・中東情勢の影響が長引く可能性が高いことから、当面強く影響が出る恐れがある。
▲	通信会社（総務担当）	・今月の特需が終了するため、やや悪くなる。
▲	ゴルフ練習場（経営者）	・今後もいろいろな物が値上げされる予定である。
▲	美容室（経営者）	・給料のベースアップを上回る物価上昇が続いている。財布のひもはますます固くなる。
▲	設計事務所（所長）	・様々な価格高騰が続き、とどまる気配がない。
▲	住宅販売会社（経営者）	・経費全般が増える要因ばかりで、売上等への悪影響が多い。大手企業の円安景気とは裏腹に、国内中小企業は悪くなる一方である。
×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・4月から値上げラッシュで、業界的にかなり厳しい状態に入っている。商材不足や客に価格転嫁ができないことが、悪化の最大の理由である。
×	百貨店（営業担当）	・取引先や関連会社との情報交換で、燃料や原材料に関する懸念が出てきている。現在のところ、大きな影響は出ていないが、楽観視はできない。購買心理にいずれ影響が出てくるとみられるため、そのときでも売上を確保できる施策を準備していきたい。
×	家電量販店（店員）	・中東情勢により、原油価格の高騰の影響が長引けば景気は下降していく。
×	乗用車販売店（経営者）	・世界情勢からみて、先行きに安定感も高揚感もない。
×	その他専門店（総務担当）	・仕入価格の上昇分を売上に反映できそうにない。
×	タクシー運転手	・大都市ではタクシー利用客が多いようだが、地方では少ない。タクシードライバーでは生活が苦しく、仕事が続かない。
×	通信会社（経営者）	・円安や原油価格高騰から波及した物価高で、消費者は必要最低限の物しか買わない。円安が全て悪いわけではないが、限度がある。

	×	通信会社（局長）	・中東情勢の影響で、原油等のエネルギー輸入の先行きが全く分からない。既にガソリン価格は上がり続けており、今後は更に諸物価の上昇に波及し、先行きは全く見通せない。
企業 動向 関連  (北関東)	◎	—	—
	○	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・中東情勢が好転すると予想している。
	□	食料品製造業（経営者）	・個人の収入は増えておらず、節約志向が非常に強い。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・好調な決算報告ができそうである。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・石油問題も含めて、海外情勢の先行きが見通せない上に、国内の景気に明るさを実感できない。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・この1～2か月は受注量と取引先の様子にかなり動きが出ている。2～3か月先はどうか、中東情勢もあるため分からない。
	□	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況なども依然として続いている。
	□	経営コンサルタント	・中東情勢や原油等エネルギー価格の変化の不透明さなどによる不確実性が大きくなっている。中小企業の業況に対する影響はさほど大きくなく、業績の変化はまだないとみている。
	□	司法書士	・何とかやっているが、良くなる様子や材料は、ほとんどゼロに近い。先行きは変わらない。
	□	社会保険労務士	・中小企業の賃上げは余り期待できない。
	▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	・中東情勢により、数字が悪くなってきている。この先、やや不安な部分が多く、どうなるかと心配している。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	・協力工場より、中東情勢の影響により資材調達ができず、生産を一部ストップする可能性があるとの報告が入っている。事態が改善しなければ、景気悪化は避けられない。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・中東情勢の影響で、化学物質など石油由来の材料等が入手困難になるとみている。実際に樹脂メーカーや電線メーカーから、受注制限や価格上昇などの通知が届き始めている。
	▲	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・今のところ、主要取引先の生産や計画に変化はないが、今後の中東情勢次第では影響が出てきそうである。先行きが不透明だ。
	▲	建設業（総務担当）	・業務量が足りておらず増える要素もないため、先行きも厳しいことが想定される。
	▲	輸送業（営業担当）	・夏物家電、その他生活必需品等については、前年並みの物量を確保予定である。労働条件も実際とはかい離しており、ドライバーの労働時間の規制、運送業としては中東の海峡封鎖等の影響による原油不足で自社のインタンクや出先での給油等に大きな問題を抱えている。こうした影響から、仕事量は確保しているものの、車両自体がどこまで動かせるか見通しが難しい状況である。
	▲	金融業（営業担当）	・中東情勢による原材料価格の高騰等、今後に不透明感があるため、やや悪くなる。
	×	金属製品製造業（経営者）	・資材が入手困難となり、製造が停止すると悪くなる。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	・中東情勢で動きが相当鈍くなっている。2～3か月後はもっと悪くなるのではないかとみている。
	×	不動産業（管理担当）	・中東情勢の影響で物価上昇傾向が一段と進みそうである。4月から最低賃金が上がることや社会保険料の負担増加もあり、これまでに経験したことのない厳しい状況になると見込まれる。また、管理物件の清掃部門では、ワックスなど油脂由来の資材が入荷できなくなれば、業務量を減らすなどの対応を取らざるを得ず、売上減少につながる事態になりかねないため、非常に懸念している。
雇用 関連  (北関東)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（経営者）	・原油価格が落ち着くことを期待している企業は多い。新入社員、新入学を迎えた学生等の購買力は、やや厳しいものの、食品や衣料品、音楽関係が動いていく期待感はある。製造業では、自動車関連への影響が厳しい。営業する上では、ガソリン価格が落ち着き、安定供給できる状況だとおおい。

□	人材派遣会社（社員）	・飲食店などサービス業を中心に人材の需要はあるものの、求職者とのミスマッチは解消していない。賃上げについては大手企業を中心に進んでいるが、余裕のない中小企業から、高時給の求人へ人材が移動する傾向が加速している。
□	職業安定所（職員）	・新規求人数が前年同月と横ばいで推移している。
□	学校〔専門学校〕（副校長）	・今後の状況を見ていく必要があるが、求人動向は大きく変わらないと予測している。
▲	人材派遣会社（管理担当）	・人材派遣を利用して就職活動する地方の人材が少なくなっており、クライアントからの製造派遣依頼も少ない。
×	*	*